

ホームドア対応床版

国土交通省は、鉄道ホームからの転落防止事故や列車との接触事故の防止策であるホームドアの設置を促進しております。従来のホーム床版は転落防止設備の一つである可動式ホーム柵（ホームドア）の荷重に耐えられない構造になっているのが現状であります。

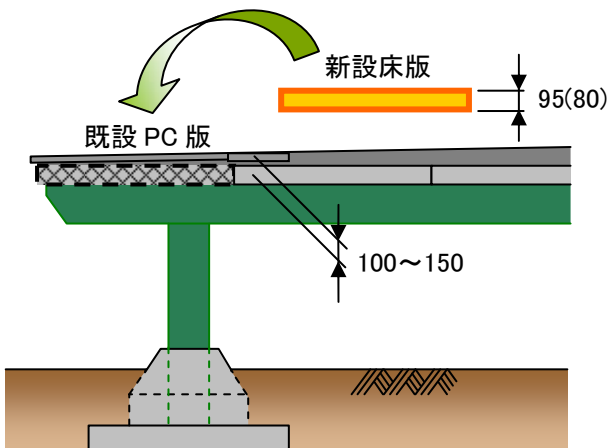
今般、従来のホーム床版をホームドア荷重対応の床版に交換するにあたり、強度も十分満足し、且つ薄肉タイプの製品を開発致しました。

これまでに比べ、**計画の柔軟性、施工性、現場適応性**に非常に優れています。（特許公開中）

特長

1 薄肉軽量化

従来のホーム床版と同等以下の厚さでホームドア荷重に対応できる為、既存ホーム受桁を加工することなく、床版を入れ替えるだけで、ホームドアへの対応を図ることができます。スラブ長さにあわせ、中央部の厚さを変更することにより強度対応をします。既設受桁上の掛り厚さ(80mm)は変更しない為、受桁の高さの調整は必要ありません。



※標準部は 95mm (既設受桁上は 80mm)

《 架設完了 》



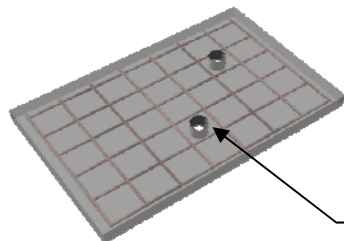
注) 上記寸法は製品スパン 3m の寸法です

2 計画の柔軟性

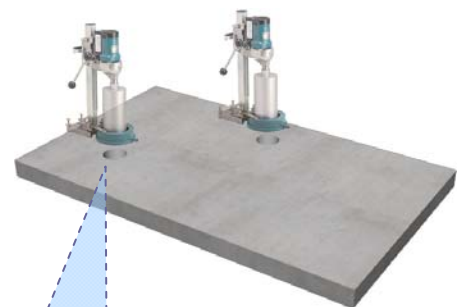
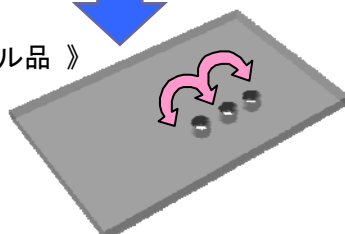
ホームドア用の**穴あけ箇所を自由**に選定できます。

補強鉄筋や PC 鋼線を用いない繊維補強コンクリートを使用することにより、ホームドア支柱用の穴あけ位置を任意で決め削孔することが可能です。ホームドア支柱、ケーブル用貫通穴を、施工後にどこでも自由に削孔できます。

《 従来品 》



《 高強度モルタル品 》



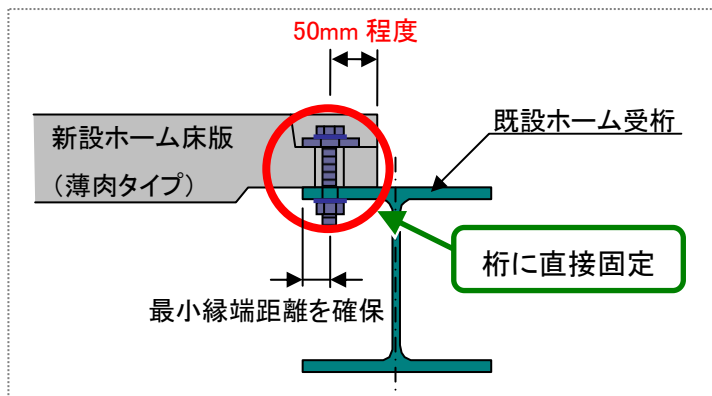
自由に開口が可能

3 施工性

桁に直接、ボルト固定できます。

新設ホーム床版を据付終了後、床版端部に設けた穴にあわせて、床版上から既設ホーム受桁に対して、ボルト用の通し穴を削孔します。その後、製品と受桁をボルトで固定します。(端部より穴の中心まで 50mm 程度)

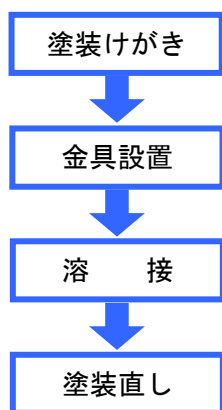
従来の固定方法でありました溶接作業が不要で、火を使用する事がございません。



注) 受桁端部の最小縁端距離の確認が必要です。(本工事では H-200×200 の既設受桁を活用しています)

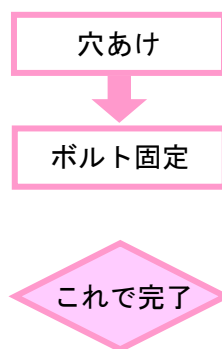
【従来の固定方法】

固定箇所の上下に関わらず既設構造に固定する場合は同様の手順となります。



【新しい固定方法】

架設後は床版上より削孔機で穴をあけ、ボルトを挿入し締め付けて固定完了となります。(溶接不要)



※1枚4ヶ所、約15分で固定まで完了

施工写真

● 首都圏内鉄道ホーム改良

